

さらに深める
各委員による

決算審査



代表質問終了後、各決算について、質疑を通して細かく審査が行われました。果たして、令和4年度予算は市民の皆さんのためにどのように使われたのか？

暮らしを創る 生活・まちづくり

地方消費税交付金の増加要因は

地方消費税交付金 20億6790万円
7255万円の増加となっているが、円安や資源価格高騰の影響と経済活動の影響を伺う。

増加要因として、円安や資源価格高騰等による物価上昇のほか、コロナ禍からの経済の持ち直しによるものと認識している。

市民の所得が向上する施策としても、総合計画に基づき地域活性化産業の振興に努めてきた。物価高騰の状況で、国や県の経済対策の財源も活用しつつ、さらに機動的に必要な対策を講じていきたい。

ラジオ以外の災害情報の収集手段は

Fマラジオ売払収入 500円
決算額500円はFマラジオ1台の販売か。災害時に即アクセスできるラジオは高齢単身・夫婦世帯が増える中、重要な情報手段となるが考えを伺う。

Fマラジオを販売する事業は令和3年度で終了したが、1台が見つかり販売した。災害情報の収集は、販売したFマラジオも有用であるが、市販の防災ラジオもコストパフォーマンスが高い。令和3年度からは災害時の情報を希望される全世帯の固定電

予算の見積もりは適正か

不用額 33億6035万円
不用額が年々増加しているのはなぜか伺う。

令和3年度から本格的に開始したワクチン接種事業について、日々変化する国の方針に対し、ワクチン接種を確実に実施するため各種経費を最大限見積り予算化した。接種者の減少や、それに伴う集団接種日数の減などにより、不用額が多額になったものである。

高める 健康・福祉

生理用品無償配布事業 生理の貧困の解決に向けて

子ども居場所づくり支援事業
36万円

配布対象者が生活に困窮している子供とされているが、生活が困窮しているかどうかをどのように判断しているのか。

本間に生活困窮しているかどうかを確認する手段はないが、配布をなるべく対面で行っており、その際に様子を確認したり、困り事を聞いたりして、その他の支援が必要かどうかを確認している。(写真A)



困っていることありませんか。様々な事情から不安や痛み、つらさを抱える女性を支えようと、支援の充実に取り組んでいます。



あなたを支える相談・支援窓口 (にいがた Ribbon net)

ネグレクトの件数とその要因は

要保護児童対策事業 1171万円
増加の要因と対応を伺う。

親の不注意で、子供に軽微なケガを複数回させたケースがあったことが要因である。児童虐待の増加や、親に寄り添った対応のできる専門職の充実やスキル向上に力を入れている。

子ども食堂の支援、充実を

子どもの居場所づくり支援事業 40万円

子ども食堂4団体の活動回数と参加者数、助成金額の増額の可能性を伺う。

「つばめこども食堂・地域食堂」は12回で延べ710人。「白山町みんなの食堂」は13回で延べ538人。「おたがいさま食堂」は11回で延べ847人。「みなみくーちゃん食堂」は、昨年10

働く 魅せる 産業・観光

多様な子供たちのサポート体制を強化

発達コーディネーター育成事業 4万円

具体的な事業効果について伺う。

これまで、発達コーディネーターの役割は、主に保育園・こども園の園長が管理職務と兼ねて担ってきたが、園長とは別に発達コーディネーターの役割を担う職員を配置したことで、特別な配慮を要する子供に対する支援体制をしっかりと確保することができた。



B 「新たな働き方や地方移住を促し、企業や人の流れをつくる」開設した施設の一つを産業建設常任委員会の委員も視察

拠点整備支援で新たな流れを

インベーション拠点整備支援事業
サテライトオフィス等進出支援補助金
950万円

入居状況と稼働率を伺う。

3つの施設に合計10事業者が入居し、補助金支援が行われている。補助金は法人9件に100万円、個人事業主1件に50万円の割り当てで、合計950万円の補助金が提供された。3施設は2022年2月に開設され、5年間の収支見込みでは全施設が黒字化予定である。(写真B)



燕市ホームページ「燕市の子ども食堂について」

**このやり方で委託業務と言えるのか**

産業史料館運営業務委託事業

2802万円



問 産業史料館の体験工房館に勤務していた市職員を観光協会に雇い入れ、その分委託費を増額しているが、このやり方で本当に委託業務と言えるのか。



答 市の会計年度任用職員としてこれまで従事していた方を、令和4年度は観光協会の臨時職員として雇用、体験工房館スタッフとして従事している。この身分の変更は、市と観光協会の両者合意のもとに決定した。

**補助金の利用実績がないのはなぜか**

中小企業DX推進支援事業

1271万円



問 予算2500万円のうち利用は半分だが、その中でも燕版共有受発注システム導入促進補助金の利用実績がないのはなぜか。



答 令和4年度の利用実績はなかった。企業によってはお金をかけてプログラムを構築しなくてもこのシステムを活用できる場合があり、今回活用した6社が全てその必要がなかったのが大きな要因である。

**子育て・教育****より多くの子供たちが参加できる長善館学習塾に**

長善館学習塾事業

58万円



問 市内の違う学校に通っている同じような年代の生徒が長善館学習塾で出会うことは子どもたちの人生の中でも大きな出来事である。より多くの

学校から参加できる事業にするためにどのような対応をしているか。



答 市内の小学校5、6年生に対して、長善館学習塾の事業として子供たちが作成した動画や作成物を学校に紹介している。子供たちが参加したいと思えるように、さらに周知を図っていく。(写真)

**不登校児童生徒への支援の強化を**

適応指導教室事業

742万円



問 適応指導教室に通う生徒の中で学校復帰ができた児童生徒はいたのか何つ。



答 令和4年度に抽出した26名のうち、適応指導教室への通室が解消となり、学校生活に復帰した生徒は6名であった。



未来の燕市を担う子供たちを応援、様々な活動に挑戦！